



# 校長室だより 足立区立第九中学校

第5号 令和3年6月8日発行 佐藤 豊



## 第74回 学年運動発表会が迫る！！

佐藤 豊

緊急事態宣言が延長され、本来の運動会は実施することはできませんが、学年ごとの運動発表会形式で運動発表会を開催します。九中のみなさんに運動発表会で学んで欲しいことを掲載します。

### 仲間を信じること、大切にすること、団結すること

仲間を信じること、「信頼」ですが、どうしたら信じあえるのでしょうか？たくさんあると思いますが、「一人一人が自分の役割を果たすこと」と「自分のもっている力を出し切ること」が大切ではないかと思います。

それぞれの係の仕事を責任もってやり遂げることや、クラスや自分の種目での役割を精一杯行うことが大切だと思います。

人には得意不得意がありますから、足の速い人、体力のある人、声の大きい人もいれば、そうでない人もいます。しかし、自分のもっている力を伸ばそうと全力を出し切る姿、拍手で精一杯応援する姿を見れば、私はその人を信頼しますし、また感動もします。

各自が役割を果たすこと、最後まで全力を尽くしあうことによって、信じあえる学級・学年を目指してほしいと願います。

もう何十年も前のことになりますが、当時の新聞に載っていた記事を紹介します。「大縄跳び」に関する話です。練習で、どうしてもうまく跳べない生徒がいるクラスでの出来事を紹介したものです。

「大縄跳びで、彼を外すのはいやなんです。」運動会が2日後に迫った日の学級活動でのことだった。担任の先生にクラスの一人が言ってきた。

長さ20mほどの大縄をクラス全員で跳び、合計回数を競う競技。しかし、彼一人だけがどうしても跳べない。まず一人で、次に二人で練習した。みんなで声をかけてもみた。それでも、やはり縄にひっかかった。一緒に跳ぶことが平等なのか。外すことが思いやりなのか。先生は迷いながらも、彼を声かけ役にしていた。

みんなで話し合った。一人ずつ意見を言う。36人中、「勝てなくなるから入れない」が13人。「チームワークが大切だから」が11人。後半だけに入れる折衷案が出た。

「この折衷案あたりで落ちつくか。」と先生は思い、採決をした。

ところが、「反対」が23人。「彼にとって、全部出ないより辛いと思う。」「クラスがばらばらになるのはいやだ。」さらに、「跳びたくないのって彼に聞いたら、跳びたいって。だから入れたい。」

パチパチと拍手が起きた。別の子が立って意見を言う。

「勝ち負けなんて。」拍手が大きくなる。

「みんな、本音を聞かせて。それでいいのか？」先生は涙声になっていた。

全員が「一緒に跳ぶ」に手を挙げた。

結果……本番では、5クラスで最下位だった。それでも、彼は初めて続けて跳べた。最初は友達と手をつないで、次は一人で、全部で71回跳んだ。

彼は作文に書いた。「飛び跳ねるほど、うれしいです。今日の僕は絶好調でした。」

本番、心配で（皆の）足元ばかり見ていた先生が、他の生徒の作文で知ったことがある。

「みんな、跳びながら泣いていました。」

運動会は結果だけではなく、そこにいたるまでの過程も大切です。運動発表会が終わった時に、各学級・各学年で「本当によかった。」と思える運動発表会にするため、この一週間、各学級・各学年で体調管理に充分注意し、協力しあって練習に取り組みましょう！

## 「卒業生の話を聞く会」が行われました

6月5日(土)に3年生の進路指導の一環で「卒業生の話を聞く会」が体育館で実施されました。

卒業生のみなさんには、①自分の学校に通う高校の紹介。②どのようにして、進学先を決めたのか。③受験に向けてどのように勉強したのか。など3年生が今一番聞いてみたいことを中心に話をさせていただきました。3年生も真剣に話を聞き、しっかりとワークシートに記入していました。



## 福島のみまわりが元気よく育っています

みなさんが植えたひまわりが少しずつ成長しています。

ひまわりの「里親」としては、これまでに50万人以上の方が参加しています。

さらに個人だけでなく全国3,000校以上の学校が参加し、公民や道德教育の資料集にも、この取り組みが紹介されています。



## 善意の輪が広がっています ユニセフより感謝状が届きました (SDGsの達成のために) !

ユニセフから第九中学校の募金に対する感謝状が届きましたので、感謝の言葉をここで紹介します。

第九中学校のみなさまへ

このたびは、ユニセフ募金へのご協力ありがとうございます。第九中学校のみなさんが、世界の子どもが直面する問題について考え、ユニセフに協力してくださったことを心強く思います。みなさんからの募金は、世界150以上の国と地域でユニセフのさまざまな活動に大切にに使わせていただきます。

ユニセフは、貧困、紛争などの厳しい状況下で懸命に生きる子どもたちを支え、すべての子どもたちの権利が守られる世界を目指して活動を続けています。

これからも同じ地球に生きる仲間として力を合わせ、よりよい世界を築いていきましょう。

2021年4月13日



SDGsは、普遍的な目標として「誰も置き去りにしない」という約束を掲げています。なにかの目標達成の裏で、泣いている人がいないようにと、配慮する気持ちが込められています。また、17の目標がある中の6番目に「安全な水とトイレを世界中に」があります。日本では、問題になることはほとんどないことですが、世界の貧困地域では、とても重要な課題です。

日本は先進国として、困っている国を助けなければいけない立場です。日本の一人一人が考えて、諸外国地域にも働きかけていけると良いと思います。第九中学校のみなさんには、SDGsの達成のために何ができるかということ「自分ごと」として考え、未来の世界をより良くするために行動することができる人に成長して欲しいと期待しています。

## 教育実習生のあいさつ 布施田 真奈 さん (2年生 音楽担当)

はじめまして。6月7日からの3週間、音楽科の教育実習をさせていただきます。大学では、音楽科を中心とした小学校から高校までの教育を学んでいます。今までの学びを生かし、実習に励んでいきたいと思っています。

中学校時代は吹奏楽部に所属し、勉強に部活動に、毎日充実した日々を過ごしました。その時の経験は、今の私の生きる基盤となっています。中学時代という特別な時間を過ごす生徒のみなさんとこれから生活を共にし、学び合うことができるよう頑張ります。3週間、よろしくお願いいたします。